

#### f. 高台からの景観・坑口斜面の景観

本眺望景観は塚原町の高台から、南西方向に景観資源である甲府盆地を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち塚原IC付近のトンネル坑口部及び(仮)新環状・緑が丘アクセス線が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-13に示すとおりである。

これらによると、対象道路は中景に位置しており、水平見込角は24.1度と構造物が目立ちやすい値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である甲府盆地を分断しておらず、眺望にもほとんど影響はない。また、俯角は7.0度と俯瞰景観においてやや目につきやすい角度となっているが、スカイラインの切断はないため、景観資源の眺望を阻害しないと予測する。

表8-11-13 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約530m
水平見込角	24.1°
俯角	7.0°
スカイライン切断	なし

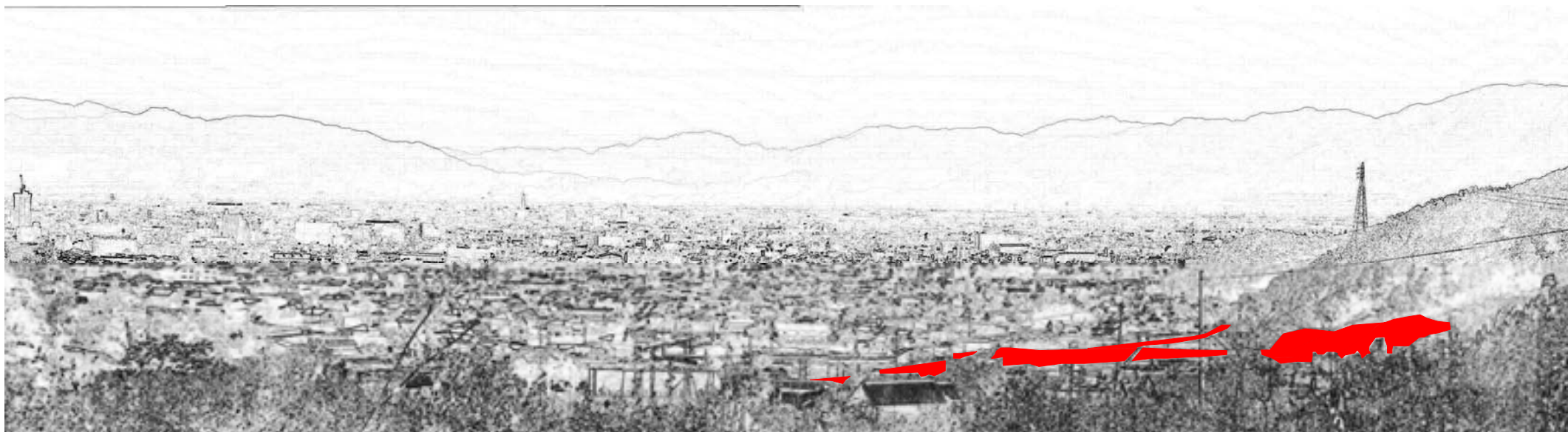
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成18年11月22日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D50
レンズ焦点距離	23.3mm
35mmフィルム 換算焦点距離	35mm

#### g. 荒川河川敷公園

本眺望景観は甲斐市敷島の荒川河川敷内から、北方向に景観資源である黒富士火山群及び秩父多摩甲斐国立公園の端部を眺望する生活上の景観である。

対象道路のうち甲府市と甲斐市をつなぐ金石橋付近に架設される橋梁及び牛匂ICの橋梁が視野に含まれる。また、黒富士火山群端部の丘陵景観は分断されるが、秩父多摩甲斐国立公園に係る森林の景観に改変はない。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-14に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は21.5度と構造物は目立ちやすい値となっている。また、仰角は3.3度と圧迫感が生じない角度に抑えられており、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは黒富士火山群の丘陵景観に影響を及ぼし、橋梁構造は目立つものと予測する。これらの変化は荒川河川敷公園の利用等に大きく影響するものではないが、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-14 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約290m
水平見込角	21.5°
仰角	3.3°
スカイライン切断	なし



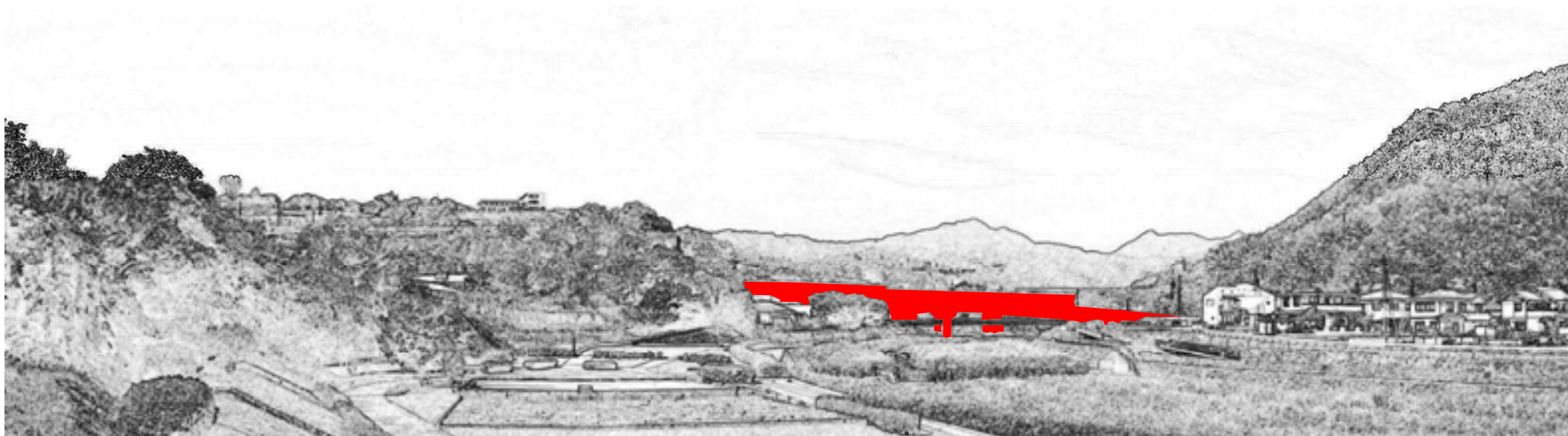
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成18年11月22日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D50
レンズ焦点距離	23.3mm
35mmフィルム 換算焦点距離	35mm

#### h. 県道敷島竜王線（富士山が見える場所）

本眺望景観は県道敷島竜王線の道路上から、南方向に景観資源である富士山、黒富士火山群及び秩父多摩甲斐国立公園を眺望している。

対象道路のうち甲府市と甲斐市をつなぐ金石橋付近に架設される橋梁が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-15に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は31.4度と構造物は目立ちやすい値となっている。また、俯角は0.8度と俯瞰景観の中心領域から外れており、構造物による富士山のスカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-15 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約330m
水平見込角	31.4°
俯角	0.8°
スカイライン切断	なし



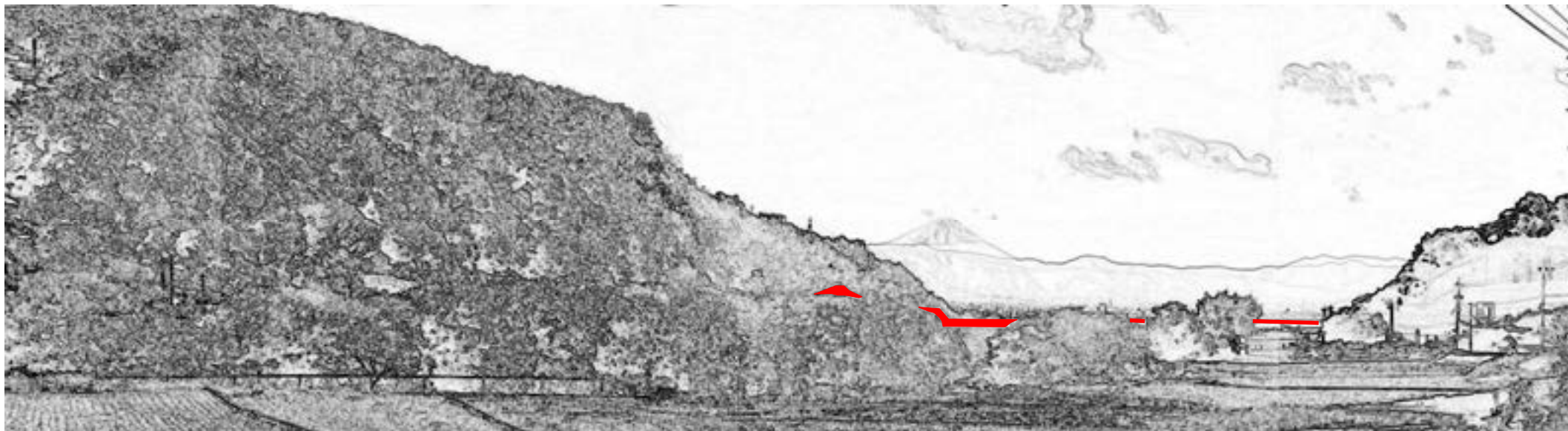
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成18年11月22日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D50
レンズ焦点距離	23.3mm
35mmフィルム 換算焦点距離	35mm

#### i. 一橋陣屋跡前からの景観

本眺望景観は甲斐市指定文化財の一橋陣屋跡前から八ヶ岳南麓流れ山を眺望している。

対象道路のうち、六反川及びJR中央本線を通過する付近の橋梁が視野に含まれる。なお、物理指標による解析結果は表8-11-16に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は67.0度と構造物は目立ちやすい値となっている。また、仰角は11.0度と圧迫感が生じない角度に押さえられているが、スカイラインは切断される。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは、甲斐市宇津谷地区の生活上の眺望景観に影響を及ぼし、橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-16 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約50m
水平見込角	67.0°
仰角	11.0°
スカイライン切断	あり



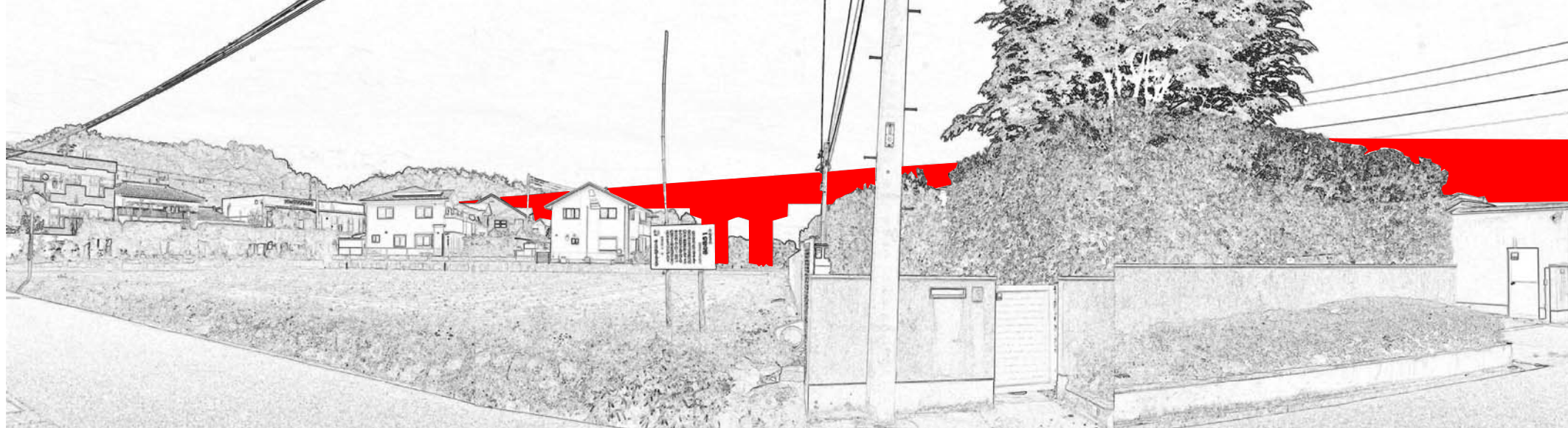
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5 月 1 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### j. 国道20号からの景観

本眺望景観は国道20号から、南東方向を望む生活上の眺望景観であり、富士山を眺望できる。

対象道路のうち宇津谷交差点付近が視野に含まれるが、可視の程度は小さい。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-17に示すとおりである。

これらによると、対象道路は中景に位置しており、水平見込角は7.8度と構造物はあまり目立たない値となっている。また、仰角は0.3度と圧迫感の生じない角度に抑えられており、スカイラインの切断はないため、景観資源の眺望を阻害しないと予測する。

表8-11-17 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約850m
水平見込角	7.8°
仰角	0.3°
スカイライン切断	なし

現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成18年11月25日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D50
レンズ焦点距離	23.3mm
35mmフィルム 換算焦点距離	35mm



#### k. 東善寺墓地の西側

本眺望景観は東善寺墓地の西側から、西方向に景観資源である甲府盆地、斜面の果樹園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路は景観資源である斜面の果樹園の一部を通過し、視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-18に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は93.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、俯角は8.7度と俯瞰景観においてやや目につきやすい角度となっているが、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは斜面の果樹園の景観に影響を及ぼし、盛土部及び橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-18 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約170m
水平見込角	93.0°
俯角	8.7°
スカイライン切断	なし

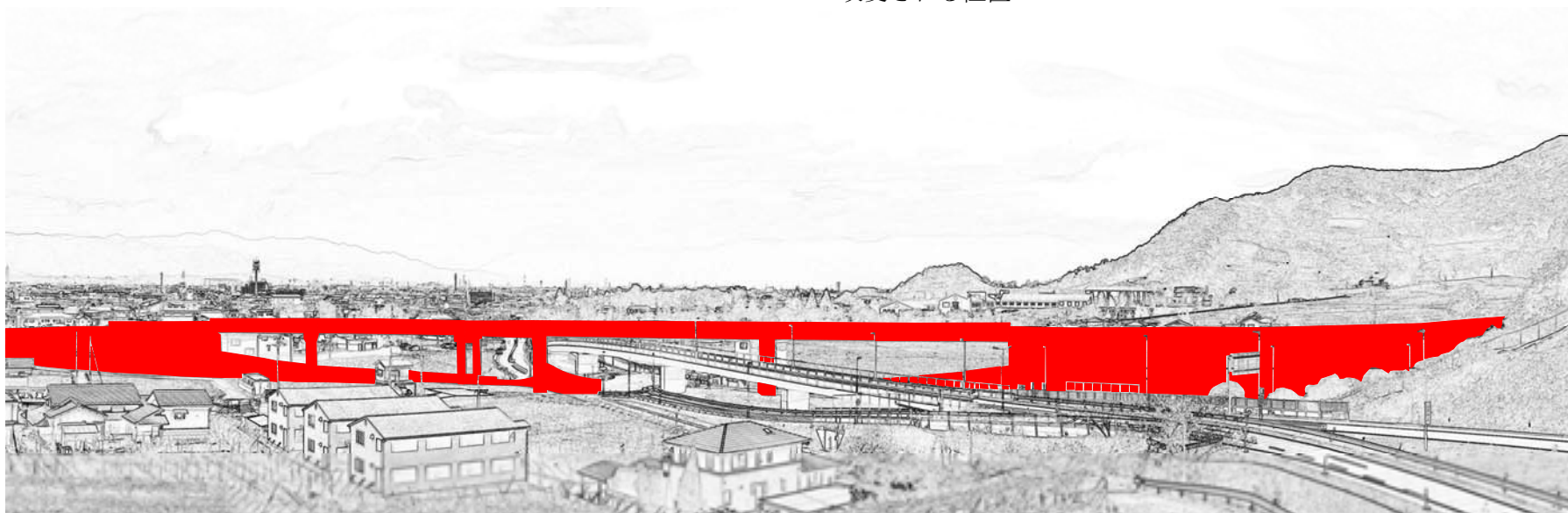
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5 月 1 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D40X
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



## 1. 桜井町散策路

本眺望景観は桜井町散策路から、西方向に景観資源である甲府盆地、斜面の果樹園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路は景観資源である斜面の果樹園の一部を通過し、視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-19に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は69.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、俯角は12.3度と俯瞰景観において目につきやすい角度となっているが、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは斜面の果樹園の景観に影響を及ぼし、トンネル坑口部及び切土部は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-19 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約105m
水平見込角	69.0°
俯角	12.3°
スカイライン切断	なし

現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D40X
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



### m. 英和大学東側住宅地入口

本眺望景観は英和大学東側住宅地入口から、北方向に景観資源である斜面の果樹園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路は景観資源である斜面の果樹園の一部を通過し、視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-20に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は102.5度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、仰角は5.7度と圧迫感の生じない角度に抑えられているが、スカイラインが切断される。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは斜面の果樹園の景観に影響を及ぼし、盛土部及び橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-20 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約140m
水平見込角	102.5°
仰角	5.7°
スカイライン切断	あり

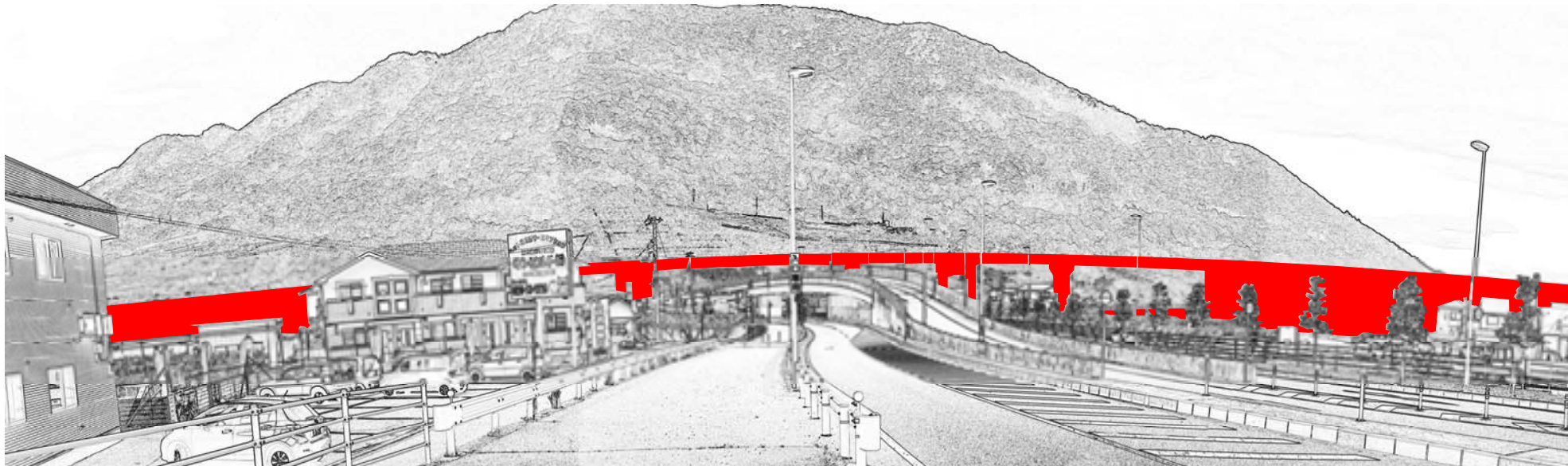
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D40X
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### n. 英和大学北西の果樹園及び桜並木

本眺望景観は英和大学北西の果樹園及び桜並木周辺の農道から、東方向に景観資源である甲府盆地、斜面の果樹園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路は景観資源である斜面の果樹園の一部を通過し、視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-21に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は100.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、俯角は3.0度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは斜面の果樹園の景観に影響を及ぼし、盛土部及び橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-21 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約240m
水平見込角	100.0°
俯角	3.0°
スカイライン切断	なし

現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D40X
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### o. 金峰神社付近及び神社北側の携帯電話アンテナ前

本眺望景観は金峰神社北側の携帯電話アンテナ前から、南西方向に景観資源である甲府盆地、やまなしの歴史文化公園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち塚原IC付近やトンネル坑口及び(仮)新環状・緑が丘アクセス線が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-22に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は27.0度と構造物が目立ちやすい値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源である甲府盆地及びやまなしの歴史文化公園を分断しておらず、眺望にもほとんど影響はない。また、俯角は8.0度と俯瞰景観においてやや目につきやすい角度となっているがスカイラインの切断はなく、景観資源の眺望を阻害しないと予測する。

表8-11-22 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約200m
水平見込角	27.0°
俯角	8.0°
スカイライン切断	なし

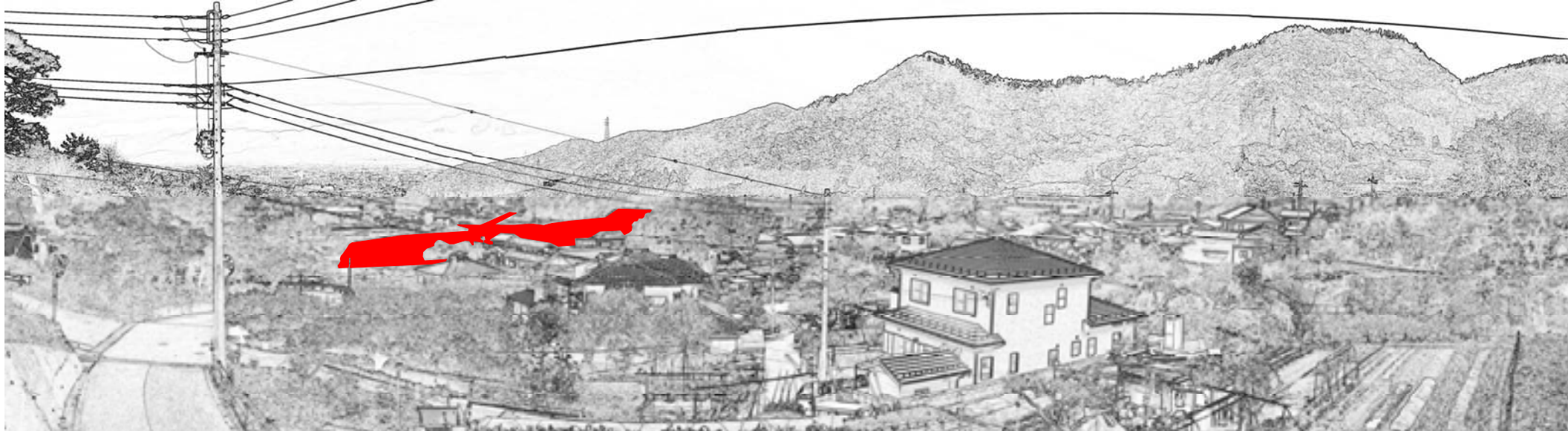
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5 月 1 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D40X
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



p. 古府中町第2号公園

本眺望景観は古府中町第2号公園から、北方向に景観資源であるやまなしの歴史文化公園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち塚原IC付近やトンネル坑口及び(仮)新環状・緑が丘アクセス線が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-23に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は110.0度と構造物が目立ちやすい値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、景観資源であるやまなしの歴史文化公園を分断しておらず、眺望にもほとんど影響はない。また、仰角は2.6度と圧迫感の生じない角度に抑えられており、スカイラインの切断はないため、景観資源の眺望を阻害しないと予測する。

表8-11-23 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約80m
水平見込角	110.0°
仰角	2.6°
スカイライン切断	なし

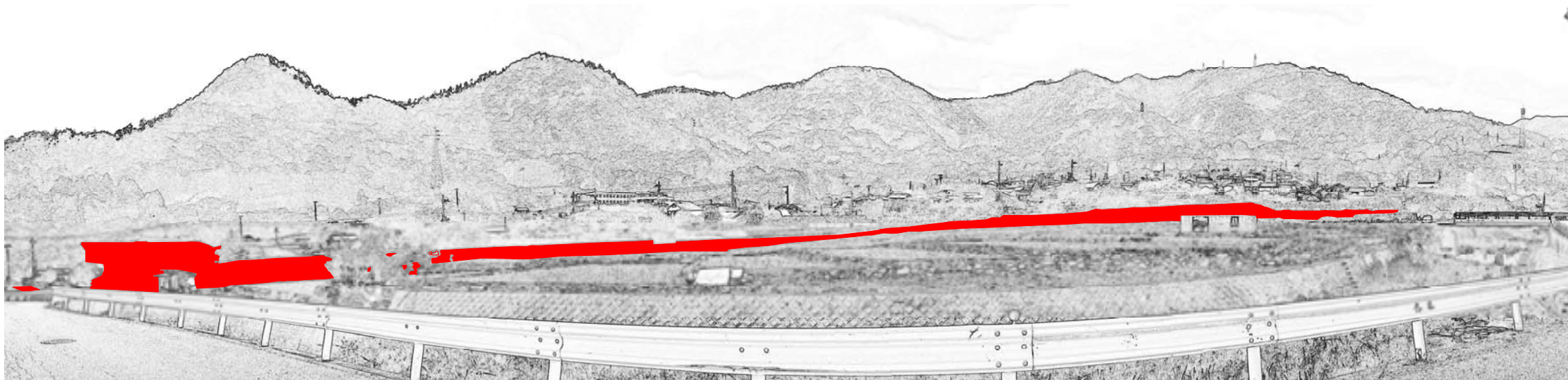
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D40X
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### q. 2号トンネル入口北側の農道

本眺望景観は2号トンネル入口北側の農道から、南東方向に景観資源であるやまなしの歴史文化公園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち塚原IC付近及び(仮)新環状・緑が丘アクセス線が視野に含まれる。また、調査地点の位置する農道は、対象道路の建設により、一部の区間で機能補償のために改修を行う。この改修部分が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-24に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は125.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、俯角は8.5度と俯瞰景観においてやや目につきやすい角度となっているが、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは塚原IC付近及び(仮)新環状・緑が丘アクセス線は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-24 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	交差
水平見込角	125.0°
俯角	8.5°
スカイライン切断	なし

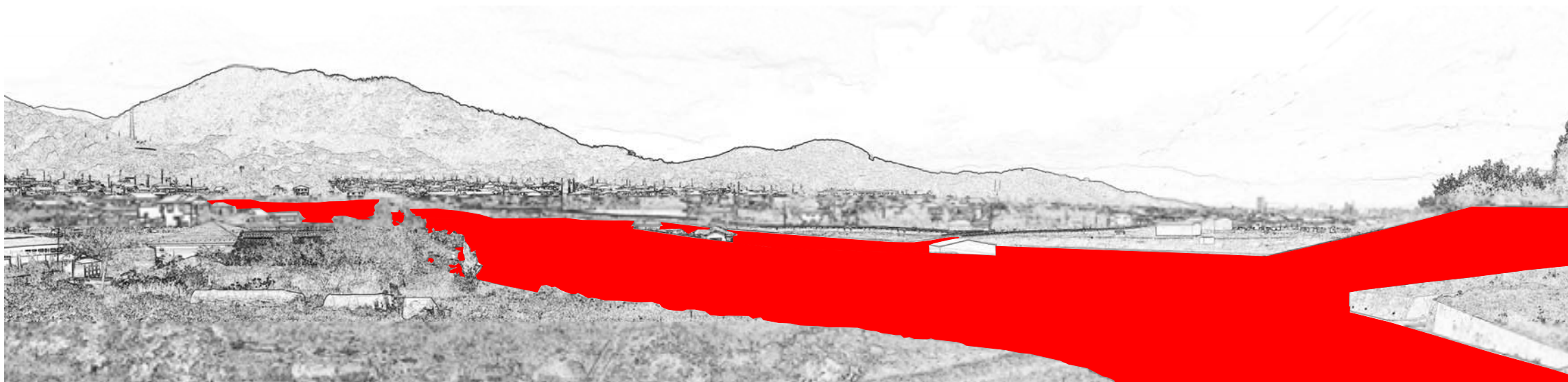
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D40X
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



r. 県道7号（甲府市山宮 昇仙峡ライン）、県道101号（甲斐市牛句 敷島竜王線）、を通過する区間

本眺望景観は昇仙峡へ向かう県道7号（甲府市山宮昇仙峡ライン）上から、北西方向に景観資源である黒富士火山群及び秩父多摩甲斐国立公園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち甲府市と甲斐市をつなぐ金石橋付近に架設される橋梁及び牛句ICの橋梁が視野に含まれる。また、黒富士火山群端部の丘陵景観は分断されるが、秩父多摩甲斐国立公園に係る森林の景観に改変はない。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-25に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は64.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、仰角は8.4度と圧迫感の生じない角度に抑えられており、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは黒富士火山群の丘陵景観に影響を及ぼし、橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-25 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約40m
水平見込角	64.0°
仰角	8.4°
スカイライン切断	なし

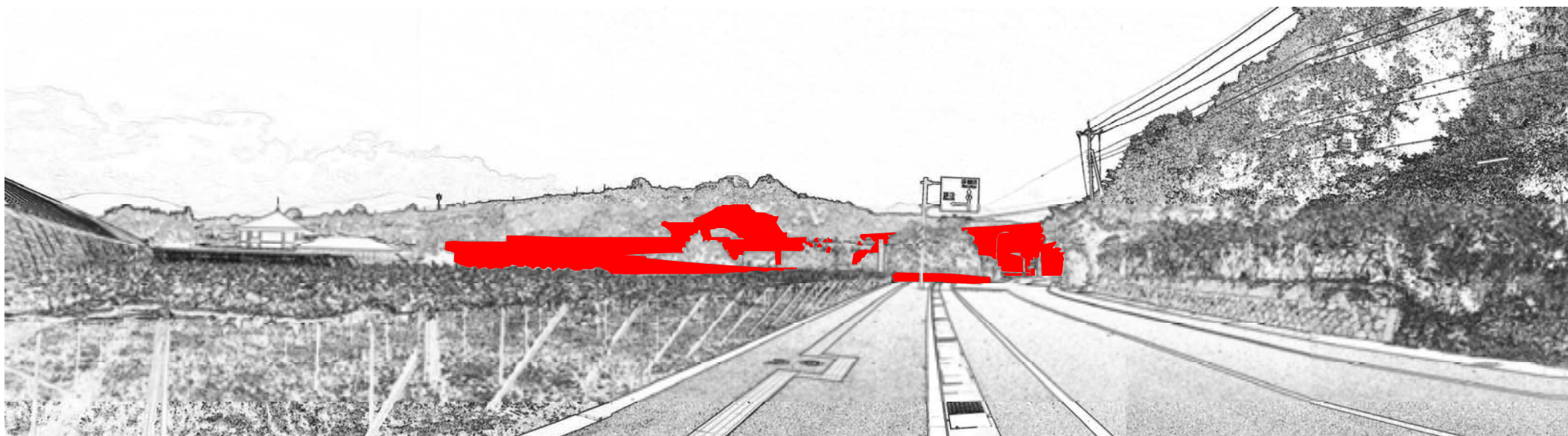
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 6 月14日
天候	晴れ
使用カメラ	Canon IXY 31S
レンズ焦点距離	5mm
35mmフィルム 換算焦点距離	—



#### s. 茅ヶ岳東部広域農道との複合影響が把握できる地点（荒川サイクリングロード）

本眺望景観は荒川河川敷沿いの荒川サイクリングロード終点部から、北方向に景観資源である黒富士火山群、秩父多摩甲斐国立公園を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち甲府市と甲斐市をつなぐ金石橋付近に架設される橋梁及び牛匂ICの橋梁が視野に含まれる。また、黒富士火山群端部の丘陵景観は視認できなくなり、秩父多摩甲斐国立公園に係る森林の景観は分断される。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-26に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は64.5度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、仰角は9.2度と圧迫感の生じない角度に抑えられているが、スカイラインが切断される。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは黒富士火山群の丘陵景観に影響を及ぼし、橋梁構造は目立つものと予測する。これらの変化は荒川河川敷公園の利用等に大きく影響するものではないが、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-26 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約60m
水平見込角	64.5°
仰角	9.2°
スカイライン切断	あり

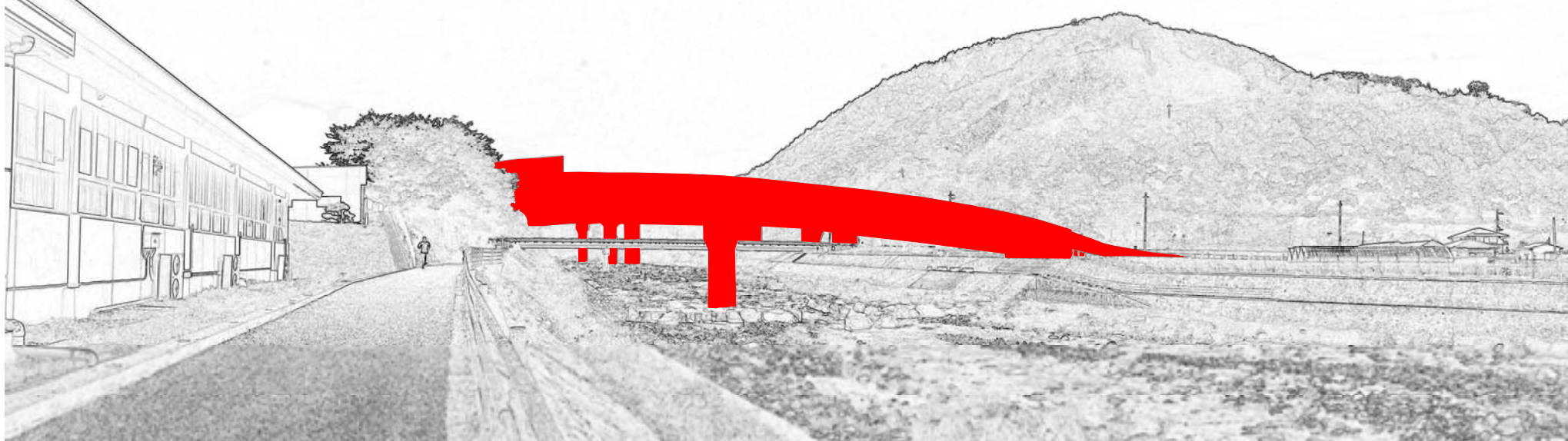
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



t. 矢木羽湖

本眺望景観は矢木羽湖東岸付近から、南東方向に景観資源である富士山、黒富士火山群及び秩父多摩甲斐国立公園を眺望している。

対象道路のうち甲府市と甲斐市をつなぐ金石橋付近に架設される橋梁が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-27に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は23.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、俯角は6.1度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-27 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約400m
水平見込角	23.0°
俯角	6.1°
スカイライン切断	なし

現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### u. 高原団地 北側の公園付近

本眺望景観は高原団地北側の公園付近から、北西方向に景観資源である黒富士火山群を眺望する生活上の眺望地点である。

対象道路のうち大袋地区付近を通過する付近の盛土部及び橋梁が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-28に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は58.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、仰角は2.4度と圧迫感の生じない角度に抑えられており、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは盛土部及び橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-28 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約370m
水平見込角	58.0°
仰角	2.4°
スカイライン切断	なし

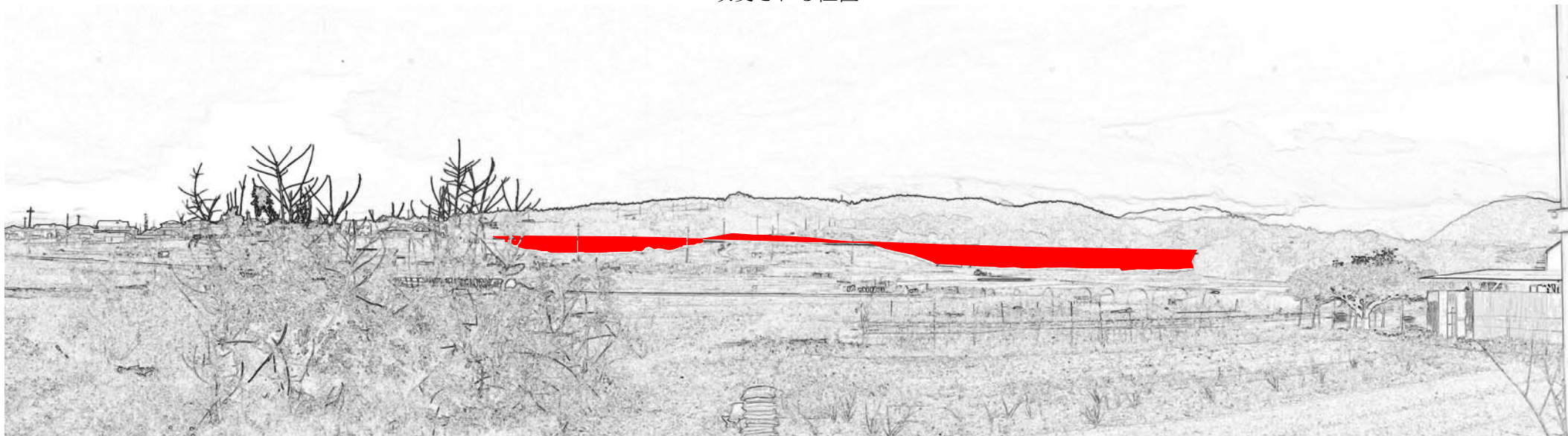
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### v. 太神神社西側

本眺望景観は太神神社西側から、南方向に景観資源である塩川（左岸）河成段丘を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち甲斐IC・JCT付近の盛土部が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-29に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は46.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、俯角は2.1度と俯瞰景観の中心領域から外れており、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは盛土部は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-29 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約330m
水平見込角	46.0°
俯角	2.1°
スカイライン切断	なし

現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### w. 舟形神社北西

本眺望景観は舟形神社北西から、北方向に景観資源である八ヶ岳南麓流れ山を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち六反川及びJR中央本線を通過する付近の橋梁が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-30に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は63.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、仰角は7.8度と圧迫感の生じない角度に抑えられているが、スカイラインが切断される。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは八ヶ岳南麓流れ山の景観に影響を及ぼし、橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-30 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約80m
水平見込角	63.0°
仰角	7.8°
スカイライン切断	あり

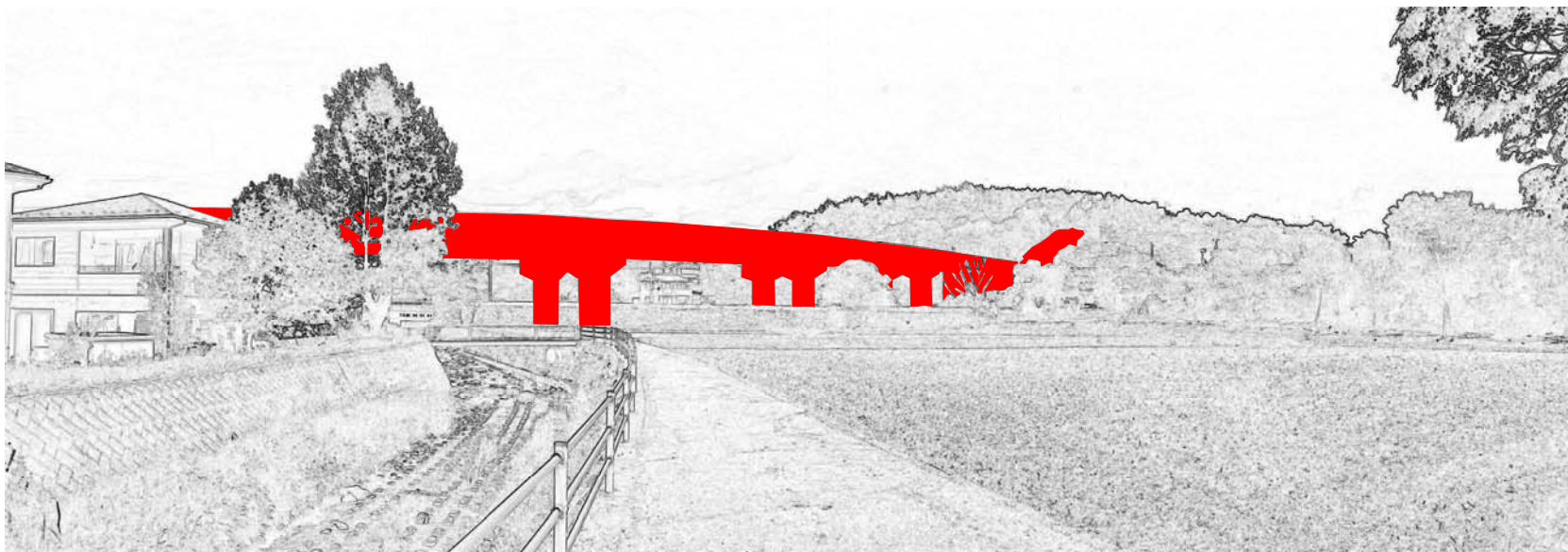
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5 月 1 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### x. 市営田畑団地付近

本眺望景観は市営田畑団地付近から、南東方向に景観資源である富士山を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち宇津谷交差点付近の盛土部及び橋梁が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-31に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は49.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、仰角は1.6度と圧迫感の生じない角度に抑えられており、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは盛土部及び橋梁構造は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-31 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約160m
水平見込角	49.0°
仰角	1.6°
スカイライン切断	なし

現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



#### y. 国道20号と六反川の交差点付近

本眺望景観は国道20号と六反川の交差点付近から、北方向に景観資源である八ヶ岳南麓流れ山を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち宇津谷交差点付近の盛土部が視野に含まれ、八ヶ岳南麓流れ山の景観は分断される。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-32に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は110.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、仰角は3.4度と圧迫感の生じない角度に抑えられているが、スカイラインが切断される。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは八ヶ岳南麓流れ山の景観に影響を及ぼし、盛土部は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-32 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約50m
水平見込角	110.0°
仰角	3.4°
スカイライン切断	あり

現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D40X
レンズ焦点距離	26mm
35mmフィルム 換算焦点距離	39mm



## z. 県道6号 田畑交差点西

本眺望景観は県道6号沿道の田畑交差点西側から、南東方向に景観資源である八ヶ岳南麓流れ山を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち宇津谷交差点及び国道20号が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-33に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は42.0度と構造物が目立ちやすい値となっている。また、仰角は0.2度と圧迫感の生じない角度に抑えられており、スカイラインの切断はない。

フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは計画路線は目立つものと予測する。したがって、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-33 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約110m
水平見込角	42.0°
仰角	0.2°
スカイライン切断	なし

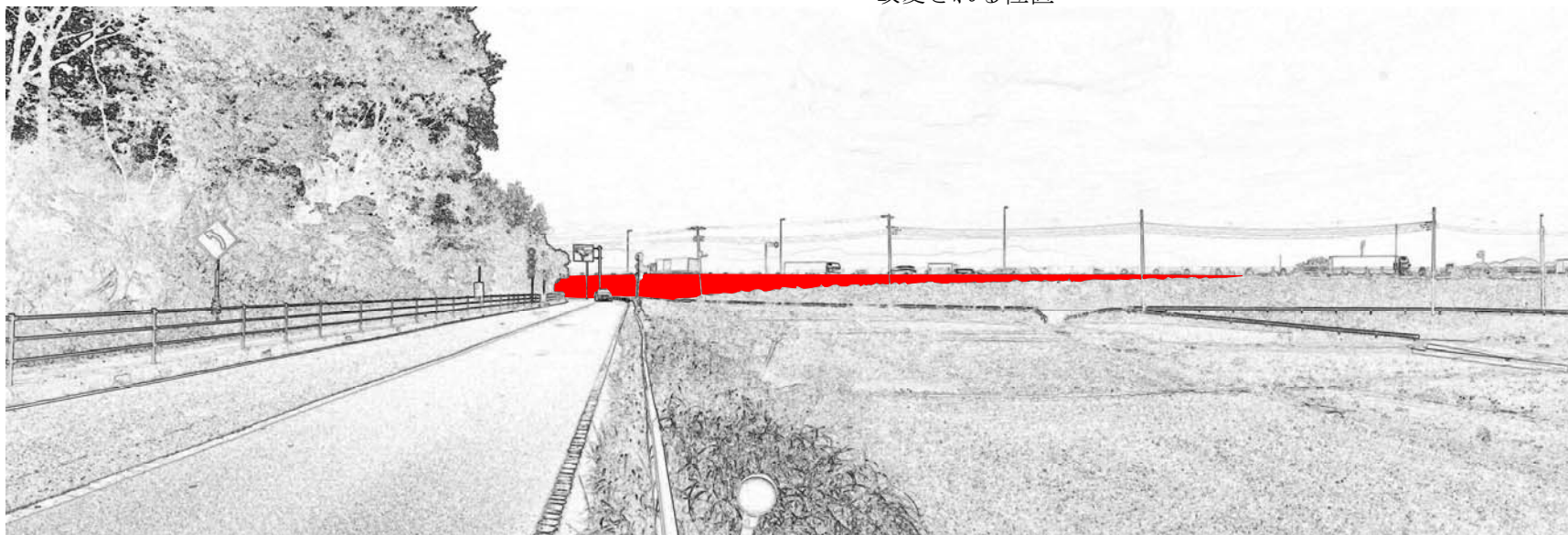
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5 月 1 日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



aa. 国道20号新田畑交差点南側

本眺望景観は国道20号新田畑交差点南側から、北東方向に景観資源である八ヶ岳南麓流れ山を眺望する生活上の眺望点である。

対象道路のうち宇津谷交差点付近の盛土部が視野に含まれる。

なお、物理指標による解析結果は表8-11-34に示すとおりである。

これらによると、対象道路は近景に位置しており、水平見込角は68.0度と構造物が目立ちやすい値となっているが、フォトモンタージュによる結果から確認すると、既存の国道20号の盛土法面の変化が大半であり、眺望にほとんど影響はない。また、仰角は2.8度と圧迫感の生じない角度に抑えられており、スカイラインの切断はない。

しかし、遠方の切土部において景観資源である八ヶ岳南麓流れ山の一部を分断しているため、フォトモンタージュ及び物理的指標による解析結果からは八ヶ岳南麓流れ山の景観に影響を及ぼし、景観の構造に変化が生じると予測する。

表8-11-34 視覚に関する物理的指標による解析結果

指標	内容
視距離	約80m
水平見込角	68.0°
仰角	2.8°
スカイライン切断	なし

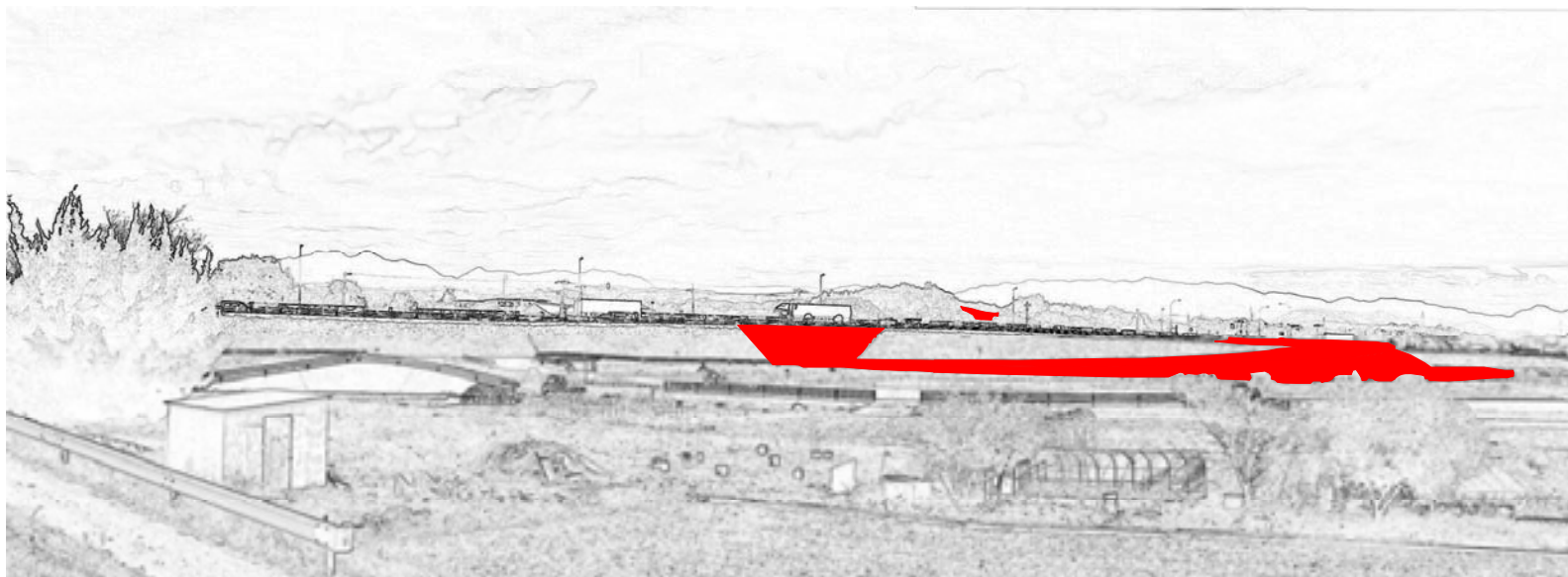
現在の風景



将来の風景



改変される位置



撮影条件	
撮影日	平成24年 5月 1日
天候	晴れ
使用カメラ	NIKON D200
レンズ焦点距離	24mm
35mmフィルム 換算焦点距離	36mm



### 11.1.3 環境保全措置の検討

#### 1) 保全対象

本事業により、景観の構造に変化が生じると予測した、表8-11-35に示す眺望点を保全対象とした。

このほか、特定の眺望点のみでなく、計画路線全域を対象とする環境保全措置についても検討することとした。

表8-11-35 環境保全措置の検討対象

対象とした眺望点	視距離
斜面の果樹園の景観	約150m
荒川河川敷公園	約290m
県道敷島竜王線（富士山が見える場所）	約330m
一橋陣屋跡前からの景観	約50m
東善寺墓地の西側	約170m
桜井町散策路	約105m
英和大学東側住宅地入口	約140m
英和大学北西の果樹園及び桜並木	約240m
2号トンネル入口北側の農道	交差
県道7号（甲府市山宮 昇仙峡ライン）、県道101号（甲斐市牛匂 敷島竜王線）、を通過する区間	約40m
茅ヶ岳東部広域農道との複合影響が把握できる地点（荒川サイクリングロード）	約60m
矢木羽湖	約400m
高原団地 北側の公園付近	約370m
太神神社西側	約330m
舟形神社北西	約80m
市営田畑団地付近	約160m
国道20号と六反川の交差点付近	約50m
県道6号 田畑交差点西	約110m
国道20号新田畑交差点南側	約80m

## 2) 環境保全措置の検討

道路の存在による景観の影響を低減するための環境保全措置として、表8-11-36に示す4案を検討した。

環境保全措置の検討の結果、「地形改変部の緑化」、「ラウンディングによる周辺地形との調和」及び「構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討」を採用する。

表8-11-36 環境保全措置の検討

環境保全措置	検討箇所	環境保全措置の効果	環境保全措置の検討結果
地形改変部の緑化	計画路線により地形を改変する箇所	周辺の構成種と調和した樹木を用いて緑化を行うことで、周辺景観に調和させることが可能である。	周辺景観に調和させることが可能であり、効果が確実に見込めることから、環境保全措置として採用する。
ラウンディングによる周辺地形との調和	切土部	切土部ののり肩をラウンディングすることにより、周辺地形と違和感なく連続させることが可能である。	周辺景観に調和させることが可能であり、効果が確実に見込めることから、環境保全措置として採用する。
構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討	六反川渡河部付近、荒川渡河部付近、桜井IC付近	周辺景観に調和させることが可能である。	周辺景観に調和させることが可能であり、効果が確実に見込めることから、環境保全措置として採用する。
眺望点の移設	保全対象とした眺望点（表8-11-35参照）	新たな眺望景観となりうる場所に眺望点を移設する。	眺望点の移設により眺望景観の影響を回避または低減することが困難であるため、環境保全措置として採用しない。

## 3) 検討結果の検証

実施事例等（資料編2.2参照）により、環境保全措置の効果に係る知見は蓄積されていると判断される。



#### 4) 検討結果の整理

環境保全措置に採用した「地形改変部の緑化」、「ラウンディングによる周辺地形との調和」及び「構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討」の効果、実施位置、他の環境への影響について整理した結果は表8-11-37に示すとおりである。

なお、環境保全措置の実施にあたっては、専門家等の意見を聴取しながら適切に行うものとし、構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩は事業進捗とともに具体化する内容であるため、事業実施段階において検討を行うこととする。

表8-11-37(1) 検討結果の整理

実施主体		国土交通省関東地方整備局
実施内容	種類	地形改変部の緑化
	位置	計画路線により地形を改変する箇所
環境保全措置の効果		周辺景観に調和させることが可能である。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		特になし

表8-11-37(2) 検討結果の整理

実施主体		国土交通省関東地方整備局
実施内容	種類	ラウンディングによる周辺地形との調和
	位置	切土部
環境保全措置の効果		周辺景観に調和させることが可能である。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		特になし

表8-11-37(3) 検討結果の整理

実施主体		国土交通省関東地方整備局
実施内容	種類	構造物（橋梁等）及び道路付属物の形式、デザイン、色彩の検討
	位置	六反川渡河部付近、荒川渡河部付近、桜井IC付近
環境保全措置の効果		環境影響のある地点における対策である。 周辺景観に調和させることが可能である。
効果の不確実性		なし
他の環境への影響		特になし

#### 11.1.4 事後調査

予測手法は図上解析による改変の位置、程度の把握、主要な眺望景観の変化を把握するフォトモンタージュ等、多くの実績を有する手法であり、予測の不確実性は小さいと考えられる。また、採用した環境保全措置についても効果に係る知見が十分に把握されていると判断でき、効果の不確実性は小さいと考えられることから、事後調査は実施しないものとする。

#### 11.1.5 評価

##### 1) 回避又は低減に係る評価

計画路線は道路の計画段階において、トンネル構造を始めとした道路構造の検討を実施しており、景観への影響に配慮し、環境負荷の回避・低減を図っている。

また、環境保全措置として、地形改変部の緑化、ラウンディングによる周辺地形との調和及び周辺景観との調和に配慮した構造物（橋梁等）の形式、デザイン、色彩の検討等の環境保全措置を実施することで、環境負荷の低減に努める。

このことから、環境影響は事業者の実行可能な範囲内でできる限り回避又は低減されているものと評価する。